いわむろ

発行所　岩室村役場
印刷所　巻・北洋印刷K.K
No.58

村民スキー教室開設

とき　2月5日（日曜日）　ところ　五日町スキー場
集合地・時間　岩室駅前　午前6時30分
◎初級者指導いたします。

岩室	東三条		五日町
6.40分	7.44分	スキー列車銀嶺1号	9.07分
17.21分	16.45分		15.33分

◎交通費自己負担　申込み　公民館宛4日迄　TEL1.141

衆院選挙投票率　開票7時30分　参観人59名

投票区	区域部落	有権数	投票数	投票率
第1投票区	和納，高橋，富岡	1,910	1,636	85.76
第2投票区	原，津雲田	187	172	91.98
第3投票区	夏井，南谷内	353	291	82.44
第4投票区	北野，西中，白鳥，潟上，横曽根，新谷	621	514	82.77
第5投票区	高畑，南船越，油島	300	248	82.67
第6投票区	石瀬，金池，猿ケ瀬	735	621	84.49
第7投票区	久保田			
第8投票区	岩室，橋本，樋曽，栄	1,043	903	86.58
計	間瀬	921	588	63.84
		6,070	4,973	81.93

総選挙　私達の審判下る

投票率八一・九三％

県、西蒲平均に及ばず

二十九日衆院選、最高裁判所の七裁判官に対する国民審査が行なわれたが、心配した降雪もなく、朝方は日曜と小雨のため出足がにぶっていたが、雨がやんだ11時頃より、うなぎのぼりに投票率がふえた。今回の選挙は議会制民主々義の分かれ道とあってか、選挙民の関心は強く、心配された投票率も意外に高く、村平均八一・九三％を示したが、県確定投票率八一・九四％に及ばず西蒲原郡各町村平均は下より二番目と不名誉な位置にランクされたが、これは間瀬地区における、出稼ぎという特殊な状態が大きく投票率に響くが、これらも有権者の自覚によって、不在者投票で行使できるのではないか。

最長老、小池文吾さん92才　投票一番のり

投票開始時間十分前、第六投票所へ、今年九十二才小池文吾さん（石瀬）が一番のりでかけつけ、投票をすませた。「私の投じた一票で黒い霧を払うことができるだろう」と悔いのない投票をしたと自信満々。どういう観点で候補者を決めました？「立会演説を聴いたり公報できめた」選挙について若い人に望むことは？「私の若い頃は、納税者のみに投票権があった。今は二十才で得られる若い人の考えはすばらしい、その若い力を国造りに向けてもらいたい。」

小池さん

最高裁判所裁判官国民審査

裁判官の氏名	罷免×　賛成印	反対
岩田　誠	308	4,063
色川幸太郎	343	4,028
松田　二郎	308	4,063
大隅　健一郎	290	4,081
下村　三郎	282	4,089
柏原　語六	278	4,093
田中　二郎	241	4,130

衆院選挙を終えて

選管長　後藤　清

黒い霧解散のあとを受けた今回の出直し選挙も終った。今のところこの岩室村では特にこれといった不明朗さや暗いかげを連想させるような言葉を耳にしないので恐らく、かなりな程度のよい姿で選挙が行なわれたものであろうと判断される。このことは選挙民の自覚が要因の一つであることから考えて洵に喜ばしいことである。ただここで、よりよい社会の形成への道としてその内容即ち、選挙の質の向上といった観点からどんな反省が持たれるであろうか。選挙権を行使することは自分が政治に参与するという重大な意義を持つものであるから、人にすすめられたからとか人情にとらわれたり買収や供応に負けたりすることは結局自分自身の存在を無価値なものとし、主権者であることを否定した行為に外ならないと考えられる。また意中の候補者を一人に絞るとき狭い地域や職業的利害得失に重きをおきすぎて大局的な見地を忘れたきらいがあったのか無かったのか。それは代議士は一面地域或は職能の代表者ではあるが、それだけではなくて広く国家全体の消長に対する識見と抱負を持った者でなければならない筈であるからであり、よりよい代表が選ばれ、吾々の負託にこたえた国政が展開されるためには現行の公職選挙法にはまだまだ多くの欠陥が見られる。一葉の選挙公報、一回の立合演説会で候補者の人物識見、手腕力量を知れということ自体が無理のようだ。真に主権者たる国民の代表として立つ信念と自信のある候補者であれば選挙民に向って「お願いします」などとはちとおかしい話であるまいか。私共国民は選挙法の合理的改正を期待し積極的に選挙の質の向上をはかり、よりよい代表によって政治が行なわれることを祈念してやまないものである。

「黒い霧を払う主役」　若い目

成人式

成人の日十五日、式典が岩室中学で行なわれた。今年の輝かしい新春を迎えた若人は一九四名（有権者九九名）出足は好調で、女性の晴れ着姿が目立ち、和服姿の娘さん達で会場は花が咲いたよう。成人になったある女性に「選挙について？」と問えば「始めての参政権で任務重大と思う、二十万円中元、田中事件とあんな事件はなくしたい。出たい候補者より、出したい人を」と明言。「候補者は金で、国民の目をだまかしている。私達成人は、ごまかしは嫌いだ、誰にでも左右されず正しい立場に立って議員を選ぶ」……「今回の選挙は衆院だから身近に感じないが、次の村長、村議選は充分に検討し村発展に役立つ人を」と男性が意欲的な意見を述べていた。成人後、直ちに選挙とあって、選挙啓発運動が注目されたが、村選管は慎重を期し万全の配慮で選管長後藤清氏が、参政の重要性としての自覚をよびかけた。記念講演は「生きるということについて」と題して、県教育庁指導課長、池政栄氏が西蒲地方の農村女性の地位、封建性、若人の人生論と成人の身近かな問題で聴衆を引きつけた。一方永久選挙人名簿の切替えで二十歳になっても約数十名の成人者が、総選挙で投票できないため若人達も割り切れぬ表情だった。

住所
氏名